

県民参加・NPO 協働通信

住民参加による「福岡地区歩行者安全対策検討会」

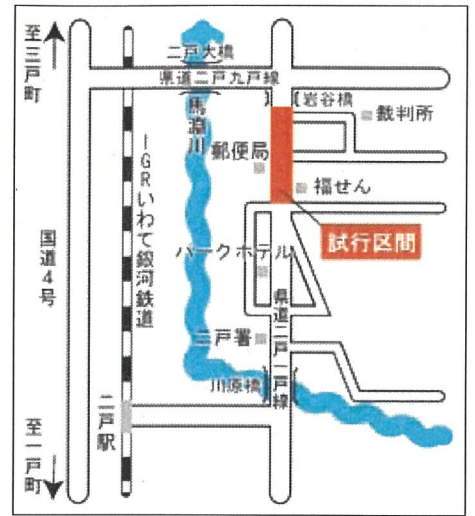
～試行結果報告(通常期)～

一般県道二戸一戸線 二戸市福岡地区(二戸警察署前～岩谷橋)の約 1.2km 区間は二戸市の中心街であり、車両・歩行者・自転車等、交通量が多く重要な役割を担っている道路です。

しかし、当地区には歩道がなく、道路幅員も最小 7.5m であり、歩行者及び自転車が安心して通行できない状況にあります。

昨年の 7 月より地域の代表者と警察・県・市で検討会を 4 回開催し、今の道路幅員の中で歩行者等の安全な通行を確保するための対策について話し合ってきました。

昨年の 11 月には計画案に基づき、試行という形で区間・期間を限定して実施し、施行期間中には、アンケート・交通量調査・車の走行速度測定等を実施しました。試行結果の概要は、以下のとおりです。



1. 試行の概要

(1) 試行名称

- ・二戸市福岡地区における歩行者等安全対策のための試行(通常期)

(2) 試行の目的

- ・歩行者・自転車に対する安全性向上を把握する。
- ・通行車両への交通上の影響を把握する。
- ・他区間への適用を検証する。

(3) 試行区間

- ・橋場交差点(福せん付近)～岩谷橋手前までの約 500m 区間

(4) 試行日

- ・試行日 平成 16 年 11 月 16 日(火)～11 月 25 日(木)
- (試行期間: 10 日間)

試行内容表示図



(5) 試行内容

① 幅員構成の変更等

- ・歩行空間を広げ、その分車道の幅員を狭めた。また、車道をゆるく蛇行させる箇所を設けた。

② 現センターライン、現路側線の消去

- ・現在のセンターラインと路側ラインは、周囲のアスファルトと同系統色(濃グレー)のペイントにより消去した。

③ 現ポールの撤去

- ・現在設置されているポールは、一時的に全て撤去した。

④ 新たな路側線の着色

- ・試行計画平面図に基づき、新たな路側線を白線で引いた。

⑤ 歩行空間の着色

- ・歩行空間については、試行の開始、終了区間、交差点など、部分的に緑色の着色を行った。
- ・着色を行わない区間も、ライン(黄色の破線)により歩行空間となる部分を表示した。



⑥ 歩車道境界の設置

- ・ 試行計画平面図に基づき、ポストコーンを設置した。

⑦ 速度規制

- ・ 速度を 30 km/h とするための臨時規制を行った。
- ・ 規制区間の終始点には、臨時の規制看板を設置した。

(6) 試行中の調査内容

① 交通量調査

- ・ 試行前（7/21 実施済み）と試行中の変化を記録し、車両交通量への影響及び周辺道路への回避の影響などを検証した。
- ・ 調査項目：車種別自動車交通量、歩行者交通量
- ・ 調査時期：通常期 11月18日（木）7～19時

② アンケート調査

- ・ 試行内容についての評価及び効果を把握するため行った。

③ 車両の走行速度検証

- ・ 現状と試行時における車両の走行速度を計測し、計画の効果について検証した。

④ 渋滞状況の調査

- ・ 試行により、渋滞が見られるか確認した。

(7) 実施体制

- ・ 実施主体：二戸地方振興局、二戸警察署



2 試行の結果（抜粋）

【通行速度調査結果】

- ・ 事故の大きな要因の一つである、最高速度を大幅に低下（55 km/h → 44 km/h）することができました。
- ・ 平均速度は微減（41 km/h → 38 km/h）という結果でした。

- 調査主体：二戸警察署

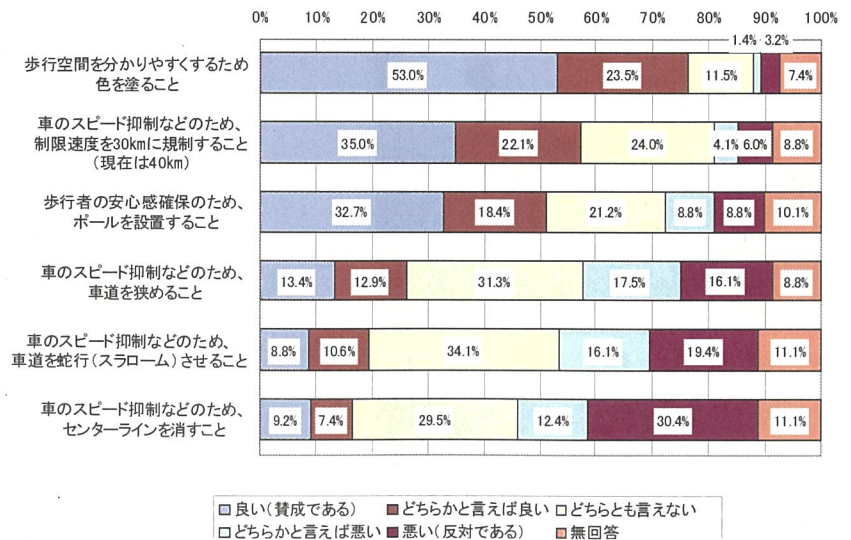
	平常時		試行時	
調査日時	平成 16 年 11 月 9 日（火） 午前 10：30～11：30		平成 16 年 11 月 25 日（木） 午前 10：30～11：30	
区分	北進車両	南進車両	北進車両	南進車両
台数	132 台	121 台	146 台	141 台
平均速度	41.3 km/h	40.3 km/h	38.6 km/h	37.5 km/h
最高速度	59 km/h	52 km/h	45 km/h	43 km/h

【アンケート結果】

問「今回の試行内容について、総合的に考えて、あなたはどのようにお考えですか。」

- ・ 賛同という回答が多かったのは、歩行空間の着色、制限速度の規制、ポールを設置でした。
- ・ 逆に、反対という回答が多かったのは、スラローム化、センターラインの消去でした。

市民アンケート結果（回収枚数 217）



3 最後に

なお、2月1日から10日の日程で、前回の試行結果を踏まえ計画を見直し、降雪期の状況や課題を把握するため、冬期試行を実施します。

また、試行結果を踏まえ3月に5回目の検討会をおこない、計画決定し、来年度整備する予定です。

県民参加・NPO 協働通信

花巻地域懇談会「住民参加・NPO協働を考える」

～事例発表と意見交換～

1月18日（火）、午後1時から花巻地区合同庁舎において、NPO、県・市町職員約40人が参加し、花巻地域懇談会「住民参加・NPO協働を考える～地域づくりと道・川・公園の関わりを考えよう！～」を開催しました。

当日は、土澤TMOによる道路利用の社会実験やNPO協働による花巻広域公園の利活用推進、グラウンドワークによる後川流域の再生支援といった花巻管内の県民参加の取り組み事例が紹介されました。

花巻会場の様子① 事例発表の様子 ②



④道路班の検討風景

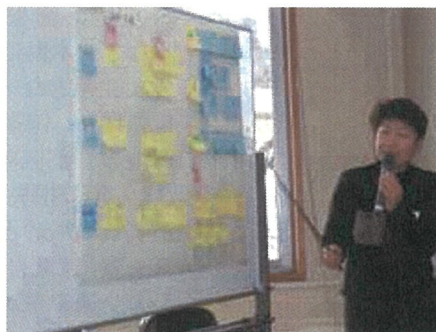


⑤発表の様子

③ワークショップの様子



⑥



◇ワークショップの概要

道路は誰のもの？公園は誰のもの？河川は誰のもの？

道路・公園・河川などの公共空間を地域づくりの視点から共に考え、課題を抽出しながら、利用者と管理者、近隣住民と行政が協働で取り組むための障害や有効性を明らかにするために、ワークショップを行いました。

全体のコーディネーターを（特活）いわてNPOセンター理事長の高井昭平さんが務め、3つのグループ（A：道路、B：公園、C：河川）に分かれ、課題や解決策について自由な意見交換をおこないました。

※右の図は、河川班がまとめた資料です。

事例発表の概要(1事例を紹介します)

地区名	東和町土沢地区（県道土沢停車場線）
団体名	株式会社まちづくり会社
事業概要	整備見通しの立たない都市計画道路における地域主導の社会実験
県民参加の内容（進め方）	地元TMOが主体となり、国土交通省の社会実験制度を利用して、商店街活性化のための歩道又は道路空間の活用策を検討し実証を試みた。
課題・問題点	①道路整備を目指した「遊びの歩道」協議会の継続的な取り組み ②社会実験を契機とした行政（県、町）とのパートナーシップの構築
備考	H15～H16の2ヶ年続けて社会実験を実施。住民主導の希少事例として全国的に認められた。

